



Title	会社の健康診断を受けましょう
Author(s)	高井, 新一郎
Citation	癌と人. 1998, 25, p. 20-22
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23799
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

会社の健康診断を受けましょう

高井 新一郎*

今回は、私自身の経験を交えて健康診断を受けることの大切さを書きたいと存じます。この小冊子「癌と人」の読者の方の大部分は、どこかの会社に勤めておられるか、またはその家族の方だと思います。

今日では、たいていの会社で社員の健康を守るために、従業員とその家族の健康診断をしておられることでしょう。

ところが、検診の日にたまたま手の放せない会社の用事が出来たりして、実際に健康診断を受けられなかつたことも多いのが現実ではないでしょうか？

私も昨年3月末に定年退官するまで、大阪大学医学部に勤務していたのですが、医者の不養生で職員のための健康診断にはあまり熱心ではありませんでした。もちろん、時間の許す限りは健康診断を受けていたのですが手術や、外来診察、学生に対する講義などのために診断を受けられなかつたことも多かったです。

ところで、定年退官後に私は聖徒病院に勤めることになり、定期的な職員検診を受けることになりました。血液を用いた一般的な検査の他に、スティック法による便のヘモグロビン検査も項目に含まれていました。（便のヘモグロビン検査による大腸癌検診の詳細は、この問題について長年熱心に研究を続けてこられた藤田昌英先生が「癌と人」第24号の21～24ページに書いておられますので、それを御覧下さい。）

私の検診結果は、血液検査の方ではあまり問題が無かったのですが、便ヘモグロビンの方は2回のうち1回は陽性だったのです。「自分だ

けは大丈夫」と勝手に思いこんでいたので、驚きました。早速、聖徒病院で注腸造影をもらつたところ、S状結腸と横行結腸にポリープが発見されました。とくにS状結腸のものは直徑1cm位の大きさでした。

そこで、自宅から近いある病院で私の先輩に頼んで大腸内視鏡下にポリープの切除をしてもらいました。聖徒病院で切除してもらわなかつたのは、現在勤務している病院なので、みんなに気を使ってもらうのが心苦しかつたからです。切除されたポリープの組織検査で、初期の癌がみつかりました。約半年が経過した先日、術後の大腸内視鏡検査を受けましたが、全く跡形もなくきれいに治っていました。

ここで、ご存知の方も多いかとは思いますが「注腸造影」と、「大腸ポリープの内視鏡的切除術」の実際を、患者として経験した立場から述べておきたいと思います。

結論からいえば、思ったよりずっと楽で、恥ずかしくなかつたということです。「注腸造影」も「大腸ポリープの内視鏡的切除術」も共に、当然、その前に大腸の内容を排除してきれいにしておかないとなりません。したがつて、以下、1) 術前準備と、2) 検査自体、3) 術後の注意事項の三つに分けて述べます。

1) 術前の準備：

a) 前日の夕食は、消化の良いものを食べること。午後9時以降は何も食べないこと（ただし水分はいくら飲んでも良い）。聖徒病院では、「すうどん」を食べてもらうようにしています。

* 医療法人協和会 聖徒病院 名誉院長 (財)大阪癌研究会一般学術研究助成選考委員

野菜類など繊維の多いものや、その他消化の悪いものは食べてはいけません。この意味で、「すうどん」はこの検査のためには理想的です。そして、就寝前に病院から投与された緩下剤を服用します。これで翌朝には排便があるでしょう。(日頃から便秘がちな方は、何日か前からこのような準備をして腸内容をできるだけ少なくしておくのが良いでしょう。)

b) さて、検査当日の朝食はもちろん絶食で、9時頃から、特別な下剤を多量の水と共に服用します(飲み方は病院の方から指示があります)。大体1時間おきに3回飲みますが、30~40分後から下痢が始まります。最後の方は、本当に黄色い水のような便になります。うっかりするとしくじりますので、外出は避けるべきでいつでもトイレに行けるところにいることが大切です。(下着の替えは必ず持っていきましょう。また、大人用・病人用の紙おむつが便利です。)

2) 検査の実際：

専用の紙製のパンツ(お尻のところが開くようにできている)と、病衣を着てX線透視台の上に横臥位で寝ます。ここから、大腸造影の場合はお尻から造影剤(バリウム)と空気が注入され、検者の指示にしたがって体位を変えながら色々な方向からX線投影が行われるわけです。

また、大腸内視鏡検査の場合は、ファイバースコープが肛門から挿入され、空気で大腸を適当に膨らませつつ内腔を見ながら内視鏡を挿入して行きます。この時も検者の指示に従って体位を変えます。内視鏡挿入時と徐々に抜いていきながら大腸粘膜の異常を観察するわけです。

目指すポリープが見つかれば(大きさや形にもよりますが)電気切除用の針金の輪をかけてポリープを切除します(電気を通して焼き切れます)。切除されたポリープを内視鏡を通して

挿入した器具で挟んで体外に取り出すわけです。

切除時には痛みは全くありません。ただ、検査のために腸の内腔を膨らませることがどうしても必要ですので、腹部膨満感は避けられません。検査終了前に送り込んだ空気はなるべく抜いてくれます。検査当日の夕方くらいまで、腹部膨満感でやや気持ち悪いのですが、時間と共に「おなら」が出て楽になります。

3) 術後の注意事項：

以上の検査や、内視鏡的ポリープ切除術は、一般に安全なものですですが、稀に合併症が起こることはあります。これは全ての検査や処置・手術につきまとうことですが、100%安全ということは期待できません。術後に血便が出たり、場合によってはポリープ切除に伴って腸管壁の一部に傷が付き、腹膜炎を起こす危険性も極く稀にはあります。これらのことについては、それぞれの病院で注意事項を教えてくれますが、異常があれば検査を受けた病院にすぐ連絡して、指示をうけることが大切です。病状によっては入院が必要な場合もあり得ます。私の場合は何事もなく、外来だけですみ、その日の夕食からふつうに食事が出来ました(アルコールのみ当日は自粛しました)。

以上が、私自身の体験談です。健康診断で便へモグロビンが陽性にでても、必ずしも癌と決まったわけではありませんし、私の場合のように、ポリープの一部が癌化していても内視鏡的切除だけですめばこれほど有り難いことはありません。精密検査を勧められても、単なる恐れや、羞恥心のために躊躇しておられる方がいらっしゃいましたら、この際是非精密検査を受けるように決心して下さい。大腸内視鏡検査は、決して恥ずかしいものではありません。それより、躊躇している間に進行癌になってしまうことが恐ろしいのです。

☆ 健康診断が役にたった他の実例：

ここからあとには、私自身が医師として治療にあたった例について書きます。

A) 胸部X線撮影が、甲状腺癌の発見につながった例

30歳の男性で、会社で受けた胃の集団検診(バリウム検査)のX線フィルムに、横隔膜の上に僅かに写った肺の一部(両側下肺野)に多発性の小結節陰影が発見されました。読影された先生の慧眼に敬意を払いたいと思います。その先生から甲状腺癌の肺転移の疑いとして我々の教室に紹介されてきました。診断確定後、甲状腺全摘術を行い、さらに肺の転移巣に対して放射性ヨードによる治療を施行しました。それから既に十数年が経過しましたが、現職に復帰して現在も全く元気に働いておられます。このように、健康診断では自覚症状が無いために気づかなかった病気が、根治可能な時期に発見できる

場合があります。

B) 副甲状腺機能亢進症の発見

これは癌ではありませんが、会社の健康診断で血中のカルシウムが高いことが偶然に発見され、精査の結果、副甲状腺の良性腫瘍によるものであることが分かった例が2例ばかりあります。手術で根治しました。

むすび

定期検診では無症状の疾患が判明することが結構あります。無症状であることは病気の初期である場合が多いのです。癌であっても初期の方が治りやすいことはいうまでもありません。したがって、会社にかぎらず、機会があれば健康診断を面倒がらずに受けること、精密検査が必要と言われたら怖がらずに十分調べてもらうことをお勧めしたいと思います。

